

フォンタン手術後患者の術後遠隔期臨床検査成績からみた臨床像の解析

当院は先天性心疾患のお子さん、特に複雑で重症な先天性心疾患のお子さんの医療の改善に努めてきました。その中でも、生まれながらの心臓病の中には、心臓のポンプが一つしかなく（正常では体のポンプと肺のポンプの二つがある）、完全な正常をめざすのではなく特殊な循環を最終的な手術の結果とするフォンタン手術が行われてきました。手術の改良や手術後の治療の進歩によって治療成績も向上していますが、手術後の長い経過では、依然として不整脈、心不全、腸から血液中のタンパク質が漏れる病気などを起こす場合があることが知られています。どのような患者さんでどのような病気を手術後に起こしてくるのかの詳しい研究はこれまでに行われていませんでした。そこで全国的にも多くのフォンタン手術を行ってきた本施設では患者さんのカルテを全例調査させていただき、これらの不明な点を明らかにしていきたいと考えています。また、転居等により他の医療機関で経過観察される場合には後日郵送や電話等で担当の先生やご家族に連絡させて頂き、手術後の状態をお伺いする場合がありますが、その際には、今後の診療向上のためご協力をお願い致します。これらの調査から多くの有益な情報を得ることで、今後のこれらフォンタン術後のお子さんや、更には成人期を迎えているフォンタン患者さんの生活管理や治療の向上に繋がることが期待されます。

この調査では、診療に関連した患者背景、手術および画像を含んだ検査結果などの全ての情報を個人が特定できないように匿名化して集計、解析し、患者様の個人情報 は 厳重に保護し、取り扱いには十分に留意し、独立行政法人個人情報保護法に基づき適正に管理しております。また、この研究は倫理委員会で研究計画書の内容及び実施の適否等について、科学的及び倫理的な側面が審議され承認されています。対象に該当する患者様で、疑問やご自身の診療情報の使用を希望されない方がおられましたら、小児循環器部門 大内秀雄(内線 60361)までご連絡ください。ご連絡がない場合には、貴重な診療情報を本研究に使用させていただきます。

今後のより重症な先天性心疾患患者の診療水準の向上のために、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

研究対象

1979年10月1日から2022年12月31日までに、当院でフォンタン手術が施行された、あるいは他院でフォンタン手術が施行され当院で経過観察されている患者全例（約600例）

研究期間

倫理委員会承認後から 2025 年 3 月 31 日まで

代表研究者

国立循環器病研究センター 小児循環器、成人先天性心疾患 大内秀雄
電話 06-6170-1070（内線 60361）